

# とうきょうすくわくプログラム実施報告書

クラス	3歳児	4歳児	5歳児
人数	5	5	5

施設番号	66-0367
法人名	社会福祉法人 あおぞら福祉会
施設名	あおぞら東豊田保育園旭が丘分園
施設所在地	東京都日野市旭が丘5丁目20-3 モナーク豊田旭が丘1階

## 1. 活動テーマ

<テーマ>

木（3～5歳児クラス）

<テーマ設定理由>

四季に合わせて変化を見せる園庭の木々に子ども達が興味を持ち続けていた。木の実や枝を拾って匂いをかいだり、色水づくりをしたり、収穫した実から採取した種をプランターに植えて新たな命の息吹きに挑戦したりしてきた。改めて木を使った遊び、木に由来する多様な素材と出会う機会を設け、五感を通して木と触れ合っていく。

## 2. 活動スケジュール 計画予定

- 1, 2025年5月～2月（年長,年中児）・積み木づくり 木片にやすりをかける（全学年）
- 2, 2025年6月～（全学年） ・さくらんぼの実収穫（種を植えて育てる）
- 3, 2025年11月（全学年） ・木を味わう 木のストローで水を飲む
- 4, 2025年11月（全学年） ・遠足にて自然に触れる
- 5, 2026年3月（全学年） ・木片の積み木で遊ぶ
- 6, 2026年3月（全学年） ・紙漉き体験

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

### 【環境設定】

- ・グループ活動を行い、子どもの発見や疑問を聞き取り易く、子ども同士の関わりを密にとれるようにした。
- ・子どもが自由に木材に触れられる環境を整え、興味関心や探求心を引き出した。・子どもの発見や疑問、提案を取り入れたり、受け止めたりしながら、活動を展開した。

### 【準備物】

様々な木の種類の木片、紙やすり、軍手、木ストロー、紙漉き用の型、牛乳パック、洗濯のり、水、マジック、 カプラ

# すくわくプログラム活動報告書

実践日 令和7年5月～令和8年2月

クラス	3歳児	4歳児	5歳児
人数		5	5

## ① 探求活動の実践

<活動内容> 積み木づくり

- ・ 様々な形の木片から好みの木片を選ぶ
- ・ 木片に紙やすりをかけて角をとる
- ・ 各辺を紙やすりをかけて滑らかな辺にする
- ・ 縁が滑らかになっているか自身で確認して終了

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

- ・ 幼児クラス内で、「木でおもちゃを作りたい」と声が挙がり、カプラづくりを予定していた。完成後のイメージ像が子ども達の中で芽生えてくると、「積み木の方が赤ちゃんも遊べると思う。」と、相手を思う言葉が出てきたため、積み木作りに変更した。初めての活動に意欲的な参加と取り組みが見られた。
- ・ 完成イメージ写真や積み木で遊ぶ写真を用いたことで、紙やすりで削った部分を触れたり、友達と確認し合い「これなら危なくないかな？」などと手触りの良さを感じながら作っていた。
- ・ 削りながら香る木の匂いを発見して、保育者や友達に「なんかいい匂いがする～はじめて」と、削っては友達と鼻を近づけて木の匂いを十分に楽しんでいた。
- ・ 木の種類を豊かにしたことで、香りの違いにも気付いていた。
- ・ ほぼ一年を通して日常の自由活動内に本活動を取り入れていった。

<実践の様子>



<振り返りによって得た保育者の気付き>

木の香りを嗅いだり、感触の違いに気付いたりしながら、五感を十分に使って自然素材に親しむ姿が見られた。また作ることを通して、使い手の気持ちを考え思いやりや協調性が育まれていることに感じる事ができた。また自分で削った木片の出来を相手に聞くことを通して、相手の意見に耳を傾け受け入れる協調性が育まれている様子も見られた。身近な自然素材が子どもの感性を豊かにし、心の安定や他者への優しい気持ちにもつながることを改めて実感した。今後も木を用いた保育活動を通して、発見や対話を楽しめる環境を整えていきたい。さらに、一人ひとりの感じ方や気づきを丁寧に受け止め、言葉にして共有することで、学びをより深めていきたい。

# すくわくプログラム活動報告書

実践日 令和 7年 5月 7日 (水)

クラス	3歳児	4歳児	5歳児
人数	4	3	5

## ② 探求活動の実践

<活動内容> さくらんぼの実収穫

- ・実がなっていることに気付く
- ・一人ひとり実の収穫を経験する
- ・実の匂いや感触を体験する
- ・収穫した後の子どもによる発展した活動へ移行(予想される姿：種を植える)

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

日頃より朝の会や絵本読みの時間に、図鑑や写真を用いて身近な木々の変化に子どもたちが意識できるようにした。園庭に出る度、自ら木を見上げ「本当だ赤ちゃんの小さな葉っぱが生えてきた!」「葉っぱがたくさん落ちちゃった」など気付く言葉が出た。実がなる頃、鳥がさくらんぼの実をつつく様子を目にした子どもたちが、「美味しいのかな 食べてみたいな。」と話したタイミングで、保育者が収穫を提案。一人ひとりさくらんぼの収穫を経験した。匂いや感触を通して種があることを発見した。一人の園児が「植えたらどうなるの?」とひらめきが生まれる。予想される子どもの姿だったため、土の入ったプランターを設けていたことですぐ種植えに移行。芽が出ることへの期待をもち種を植える作業に取り組んでいた。数日水やりなどをしたが、目が出ることなく終えた。

<実践の様子>



<振り返りによって得た保育者の気付き>

子どもの姿を予想していたこともあり、ひらめきを次への活動にスムーズに実現化することができ、子ども達も満足な様子うかがえた。保育者がさくらんぼの育て方を事前に調べたり、図鑑やネットを用いて育て方を自分達でしらべられるような環境を整えたら、更なる展開がうまれたのではと感じた。また「味見したい」との声も挙がっていたが、調理を要する提供だったため、すぐに実現化できずに、せっかくのさくらんぼが痛んでしまい食べられずに終わってしまったこともあるため、大きな視野と考えて子どもの予想される様子を広げていき、場合によっては栄養士などの手も借りながら、こどものささいなつぶやきも興味感心として深めるきっかけを作っていきたい。

# すくわくプログラム活動報告書

実践日令和7年 11月 7日(金)・13日(木)・20日(木)

## ③ 探求活動の実践

クラス	3歳児	4歳児	5歳児
人数	5	4	5

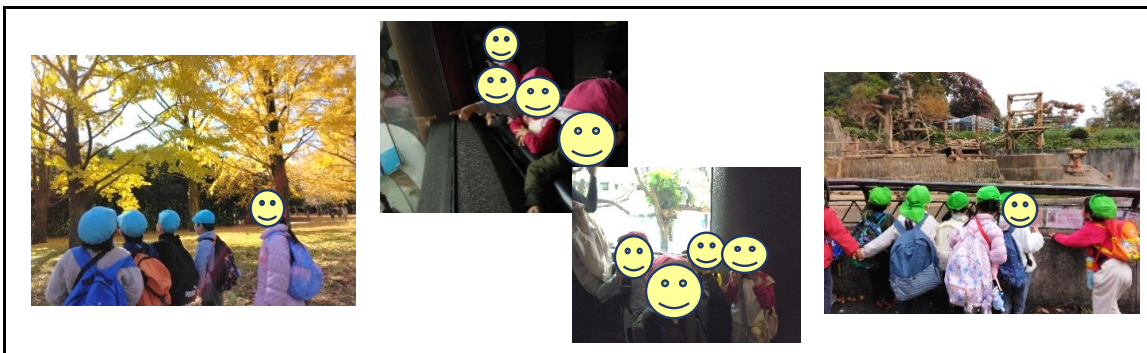
<活動内容>遠足で自然に触れる

- ・生き物や植物など色々な自然にふれる
- ・自然の変化を感じながら自然のことを学びながら遊ぶ

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

5歳児は事前に、季節によって葉の色が変化する木を調べたことで、図鑑で見つけた木を探そうという目的をもった遠足となった。現地では、実際黄色に色付いたいちょうの木を目にして「本当だ！きれい。」とイメージ以上の迫力だったこともあり、更に興味をもち傍で見たり、葉っぱをじっくり観察していた。銀杏の匂いに「なんかくさ〜い」。保育者の促しでポケット図鑑を用いて、銀杏が食べられることを発見。「そうなんだ食べてみたい。」興味に変化が見られた。4歳児は、木の上で過ごす動物クイズを行った。答えで出てきたコアラを見る事を一つの目標として遠足にいった。木の上で寝ているコアラを目にして、「本当だ！」と答え合わせができ大興奮だった。「コアラさんは木の上で寝ているけど落ちないのかな。」別の興味が広がっていった。どうして落ちないか調べることに発展した。3歳児は、近隣の公園の木材アスレチックを体験を通して、木を使って遊ぶ動物を見つけることを目的の一つとした。ニホンザルの遊ぶ様子を見て、「〇〇ちゃん見たいに上手に昇れてる！」「枝持ってお友だちと走っている。」「〇〇(私)と(遊び方)一緒！」動物と人間の共通点に興味が見られた。

<実践の様子>



<振り返りによって得た保育者の気付き>

全学年、刺激の多い園外活動において活動できたことに、普段の保育室では見られない発見や表現方法が多くあり、興味の広がりが多く見ることができた。自然環境が子どもの好奇心を引き出していることに気付いた。今回見られた更なる探求活動につなげていけるようにしていきたい。実際に五感を使って触れることを通して、木の匂いや感触に興味を持ち、もっと知りたいという思いが自主的且つ積極的に見られ、自然への関心の高まりを感じた。

# すくわくプログラム活動報告書

実践日 令和 7年11月15日(金)

クラス	3歳児	4歳児	5歳児
人数	5	5	5

## 4 探求活動の実践

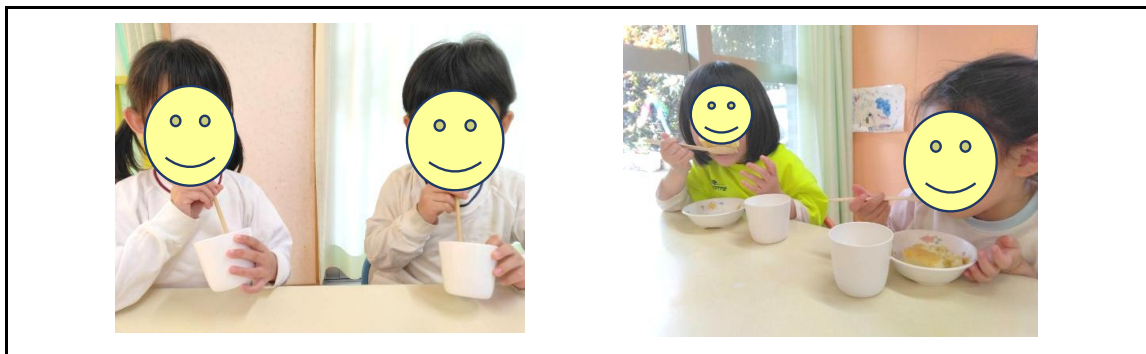
<活動内容>木を味わう

- ・木のストローで白湯を飲む
- ・味の感想を話し合う

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

友達と発見や疑問などを共有しやすいようにグループで活動を実施した。給食でみかんが出た際に、「みかんの木はみかんの味がするのかな」こどもの疑問を、今回の活動に取り入れた。身近な果実のなる木を用意することは難しかったが、木でできたストローを使用して、白湯を飲むことを経験した。全員が口にくみ終わり「どんな味がした?」「木の味がしたかな?」と保育者が投げかけると、数人が「うん。木の味がした。」「木の味がして美味しかった。」との答えの他に「不思議な味?」「まずい」「なんかカブト虫になったみたい。」と様々な感想が挙げられた。味覚には個人差があるため、なるべく味の感想を共有することはせず、一人ひとりの意見を大切に受け止め、木を味わう経験として活動を終わるようにした。

<実践の様子>



<振り返りによって得た保育者の気付き>

初めて経験する子がほとんどで、好奇心をもって取り組んでいたのが良かった。また意識して木を味わうことは日常あまりなく新鮮な体験だったようで、色々な表情と表現が見られて良かった。また友達と自身の感想が異なると、「もう一度確かめて見よう。うんそんな味もする」と相手を尊重する思いも育まれていることにつながっていることがわかった。木のストローで白湯を飲んだ感想を引き出す際に、「木の味がした?」の声掛けで、「木の味がした」など断定的な答えを植え付けてしまった。子どもの感性を豊かにのびのび表現できるように、声掛けを工夫していきたい。

# すくわくプログラム活動報告書

実践日 令和 8年3月12日～3月31日

## ⑤ 探求活動の実践

クラス	3歳児	4歳児	5歳児
人数	5	5	5

<活動内容>

- ・ やすりをかけた積み木で遊ぶ
- ・ 友達と積み木の使い方や遊び方を相談する
- ・ 友達と発展させながら遊ぶ

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

年長児と年中児がやすりをかけた木片を用いて積み木遊びを実施した。  
年中児と年長児は誇らし気、且つ嬉しそうに「作ったよ。大切に使ってね。」と友達に積み木を提供、その言葉に他クラスの園児は、「5組さんと4組さん(年中、年長児)が作ったから、大切にしよう。ありがとう。」とやりとりがあった。  
遊びながら、年中児や年長児が「ここが(やすりをかけるのが)大変だったんだよ。」と作った時の苦労話が出ると「ありがとう」のやりとりが見られた。どんな気持ちかを尋ねると提供側受け取った側お互い「嬉しい」との言葉が出ていた。積み木あそびでは、木の音色を楽しめるように保育者がドミノ倒しを提案した。意欲的に参加。自立しない木片もあり思考錯誤しながら置いていた。倒れていく様子と音にも大興奮だった。倒した後「倒れる時にどんな音がした？」と聞くと、「カタカタ」「痛い」など、音を擬人化する表現も見られた。その後、音に着目して遊ぶ姿も見られた。木の形を活かしてのごっこ遊びを楽しむことができた。

<実践の様子>



<振り返りによって得た保育者の気付き>

手作り積み木に愛着心をもち大事に使う様子を目にした。子ども自身で作ることへの重要性を感じることができた。作ってくれて嬉しい、使ってくれてありがとう、友達同士で感謝の気持ちを伝え合う姿が見られて良かった。保育者として、一人ひとりの工夫や思いを受け止めながら、子ども同士の温かなやりとりを大切に、今後も互いを認め合える関わりを育めるようにしていきたい。

ドミノ倒し遊び後の積み木遊びでは、家づくりや線路づくりをしている子が多かった。今後も保育者が一緒に遊びながら回を重ねていき、木片一つひとつに豊かな発想ができるような声掛けや遊び方を行い、子ども達の遊びが展開できるようにしていきたい。

# すくわくプログラム活動報告書

実践日 令和 8年 3月 2日(月)・5日(木)

クラス	3歳児	4歳児	5歳児
人数	5	4	5

## ⑥ 探求活動の実践

<活動内容> 紙漉き体験

- ・紙が何からできているかを知る
- ・牛乳パックを
- ・紙とセロハンを分別
- ・紙を手動で攪拌する
- ・ハガキの方に紙の基を流し込む
- ・ハガキを乾かす
- ・完成したハガキに感謝の気持ちを描き保護者に渡す

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

木が紙になるまでの様子を絵を用いて伝えた。関心は低く「へえ～」という反応だった。初めての紙漉き体験には終始興味をもって行うことができた。牛乳パックをハサミで切り開くことから実施。フィルムを剥がすために1日水に漬けたり、フィルム剥がしや牛乳パックちぎりに苦戦したり、長時間のパルプ作りを経験したりしたことを通して、完成が近づくと「紙作るのった大変なんだね。」と気付きの姿が見られた。その気持ちを受け止めて共感すると、他児から「紙大事に使わないと!」「紙を使ってる人ありがとう」などの言葉が聞こえてきた。完成し、ハガキに感謝の気持ちを描き保護者に渡す際には、感謝の気持ちを伝えながらハガキ作りの工程や大変さを保護者に伝えていた。紙漉き体験を通して子どもたちからは達成感や満足感が見られた。

<実践の様子>



<振り返りによって得た保育者の気付き>

ハガキ自体を知らない子が大半だった。ハガキの見本を提示してもパッとしなかった。“ハガキという手紙にありがとうの気持ちを伝えて家族の人に渡す”ことを伝えると、目的が明確になり終始意欲的に取り組むことができた。

ハガキ離れを実感したため、日常の保育の中で郵便ごっこなどを通して、思いを伝える手段のハガキが身近な物となるように関わられるようにしていきたい。

ハガキ作りを通して「こうやって紙作るんだ」と知識として得た言葉が挙がっていて良かった。

今回のテーマが終えた後も、私たちの生活に密接に関わる木についてより多く触れられる機会を設けていき、興味や関心を広げていきたい。